

もしも、のために知っていただきたいこと

- 定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき(健康被害)は、法律に定められた救済制度(健康被害救済制度)があります。
- 制度の利用を申しこむときは、お住まいの市町村にご相談ください(制度を利用するためには、一定の条件があります)。

※詳細は、厚生労働省HPをごらんください。「予防接種 救済制度」で検索できます。



Hib
ワクチンのはなし

シリーズ の ご紹介

このリーフレットは、法律ですすめられている定期接種のうち小児の肺炎球菌ワクチンを「きょう」接種するお子さんと、その保護者のみなさまのために、かならず知っておいていただきたい内容をまとめたものです。そのほかの定期接種についてまとめたシリーズと、あわせてお読みください。



小児の肺炎球菌
ワクチンのはなし



DPT-IPV
ワクチンのはなし



BCG
ワクチンのはなし



MR
ワクチンのはなし



日本脳炎
ワクチンのはなし

各リーフレットは、厚生労働省HPおよび予防接種リサーチセンター HPからダウンロードできます。「予防接種 リーフレット」で検索できます。

くわしくは
「予防接種と子どもの健康」
(発行：公益財団法人予防接種リサーチセンター)

をごらん
ください。



医療機関名

きょう

きょう 予防接種をうける
お子さんと、保護者のみなさまへ

小児の肺炎球菌ワクチンのはなし



#02

ノ ワ ク チ ン

きょうの予防接種を安心してうけていただくために

#02 小児の肺炎球菌ワクチンのはなし

わからないことは先生に相談しよう！



- お子さんの体調はよいか、熱があったり、ふだんと変わったところはないか確認しましょう。
- 心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておくと伝えやすくなります。
- 母子健康手帳はかならずもっていきましょう。



1

当日は
ココをチェック



- 小さなお子さんは動かないように、しっかりと抱っこしてあげてください。保護者のみなさまがリラックスすると、お子さんも安心します。
- 注射で泣くお子さんは多いもの。大切な予防接種が苦手にならないように、がんばったことをほめてあげるなど、保護者のみなさまの工夫がカギです。

小児の肺炎球菌ワクチンって？

- ◆ 子どもの多くは鼻やのどに肺炎球菌をもっています。体が弱ったりしたときに、肺炎、細菌性髄膜炎^{さいきんせいずいまくえん}や菌血症^{きんけつしやう}などをひきおこします。
- ◆ 子どもに重い病気をおこしやすい、13種類の肺炎球菌の感染を防ぐのが、小児の肺炎球菌ワクチンです。
- ◆ 肺炎球菌ワクチンを接種することで、体のなかに肺炎球菌への抵抗力（免疫）ができます。
- ◆ このワクチンは生後2カ月になってから接種し始めます。

- 1) 細菌性髄膜炎：鼻やのどにいる菌が血液に入り、脳を包んでいる膜に炎症をおこす重い病気です。耳が聞こえにくくなったり、手足が動きにくくなったりといった障害が残ったり、命にかかわることもあります。
- 2) 菌血症：細菌が血液のなかに入って高熱がでたりします。

○ 予防接種をうけても、お子さんの体質や体調によって完全な免疫ができないことがあります。また、ワクチンに含まれない種類の肺炎球菌が原因の感染症にかかることはあります。

2

ワクチンを
接種するときの
ポイント

- 接種直後、30分くらいはすぐ対応してもらえるように、医療機関のなかでお子さんの様子をみてあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。この間に急な体の変化がおこることがあります。
- 帰宅後もはげしく体を動かすことはさげさせ、接種個所をきれいに保ってあげましょう。
- お風呂には入れてもかまいませんが、接種個所をこすらないでください。

予防接種をうけたことは将来、その病気に対して免疫があることを示す大事な記録となります。母子健康手帳は大切にとっておきましょう。

おこるかもしれない体の変化（副反応）

- ◆ 肺炎球菌ワクチンを接種した後、接種個所が赤くなったり、はれたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。
 - ◆ 注射したところだけでなく、熱がでたり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。
 - ◆ 乳児はいつもよりむずかたり、眠そうにしたりすることがあります。
 - ◆ きわめてまれにアナフィラキシー^{けっしょうばんげんしょうせいしはんびょう}、けいれん、血小板減少性紫斑病^{けつしょうばんげんしょうせいしはんびょう}などの重い病気にかかることもあるといわれています。
- 3) アナフィラキシー：急激なアレルギーにより、じんましんがでたり呼吸が苦しくなったりします。
4) 血小板減少性紫斑病：かさぶたをつくる働き血小板の数が少なくなって、出血しやすくなってしまいます。皮膚の下で出血して青あざがでたり、歯ぐきから血がでたりします。

○ 予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。



3

接種後の
注意